

発行
 鯖江市教育委員会
 鯖江市社会教育委員会
 青少年健全育成鯖江市民会議

協力
 丹南青少年愛護センター鯖丹支所

はぐみ

家庭教育を考えるシリーズ

46号

あなたがいるから 私はしあわせ

教育 相談室 カウンセラーの窓から

子どもの自信を育てるための

「全てに自信がない」と話す子ら
 の、それまでの「育ち方」を家族に
 振り返ってもらおう時、浮かぶある光
 景があります。

三歳を迎えた幼児らの成長を、専
 門家が確認して見守る「検診会」で
 の事でした。

ホール一杯に高々と響き渡るよう
 な大声で、泣いている男の子がいま
 した。母親がいくらなだめても、いつ
 こうに泣きやむ気配はなく、「イヤ
 だー、帰る」と体をくねらせ泣き続
 けます。別の親たちは、気の毒そう
 な表情で、対照的に大人しく遊ぶ我
 が子に視線を落とされています。

私は、お母さんに助け舟を出すこ
 とにしました。まず、泣きじやくる
 子を抱っこして別室に入ってもらっ
 と、男の子に向かつて、
 「嫌なことがあったんやね。たく
 さん泣いていいよ」とゆつくり語りか
 けてみました。

すると、その子は一瞬目を見て、数
 秒間びたりと泣き止みました。すきを
 見て、積み木に意識をそらすと泣くの
 を忘れ遊び始めました。やがて、歩調
 を合わせるように笑顔になった母親と、
 元のホールに上機嫌で戻って行ったの
 です。

「いったい、どうやって泣き止ませた
 のか？」と不思議がつて聞かれるほど、
 うまく行き過ぎたことに私も驚きまし
 た。幼児でも安全な場所、気持ち
 が受け入れてもらえるならば、自然と
 安心し、自信もわくのではと、思い巡
 らしたひとこまでした。

わう時期でもあります。それが「自
 信の萌芽」と言えます。その後、
 小学校に上がり、仲間との学習体
 験を重ねるようになると、「自分は
 逆上がりができないが、Aちゃんは
 簡単にやってのける。」といったよ
 うに、級友と比較して自分を捉え
 るようになります。得意なことを
 見つける一方で、いくら練習して
 もうまくできず、自信を失うとい
 う意識が芽生え始めるのは、八歳
 から九歳頃からではないかと推察
 されています。

中学生ぐらいになり「アイデン
 テイティ（＝自分はこんな人間だ）」
 が形成される時期にさしかかると、
 できない部分に向く意識は加速さ
 れ、自分に自信が持てずに悩む子
 は少なくありません。

我が子の様子に自信の無さを感じ
 たら、その時からでも遅くはあ
 りません。積み木が高く積めた時
 の、自分で名前が書けた時の、「ほ
 ら、見て、見て！」という得意げ
 な顔を思い出してみてください。
 「あなたなら大丈夫」と、するこ
 とを見守り受け入れる親のまなざ

して、子どもは落ち込むことがあつ
 ても、自分で立ち直るチャンスをつ
 かみ、自信を取り戻していくこ
 とでしょう。

(T・S)

「はぐみ」は、家庭のあり方について
 みなさんと一緒に考えていきたいと発刊
 しております。子育てのヒントになれば
 と思います。ご意見をお聞かせください。

鯖江市教育委員会生涯学習課
 TEL 53-2256

平成26年度 福井県青少年育成研究大会
『守り育てよう 明日を担う青少年 育もう未来の夢』
 ～ネット社会のモラルとコミュニケーション力を高めよう～

日時 平成26年7月27日(日)
 午後1時30分～4時

会場 鯖江市嚮陽会館

日程 13:00～受付
 13:30～開会式
 13:50～表彰式
 14:15～基調講演
 講師 明神 浩氏
 15:00～パネルディスカッション

講師 明神 浩氏
 一般社団法人テレコムサービス協会
 企画部長
 電気通信サービス向上推進協議会
 事務局長

(主催) 福井県青少年総合対策本部
 (公財) 青少年育成福井県民会議
 (主管) 青少年育成福井県民会議 丹南ブロック



鯖江東幼稚園 『たのしい水あそび』



進徳小学校 『大玉送り』



中河小学校 『給食畑で人参の収穫』



東陽中学校 『かたがみ春たんぼでの演奏』

自分たちだけで抱え込まずに

子どもたちを社会のチームワークで育てましよう

女性の社会進出が推奨され、働きながら子育てをしている女性が増えています。特に福井県は、共働き家庭の多い県として有名です。社会の一員として責任を持って働くだけでなく、家事や育児をこなすお母さん、お父さんの毎日は、とても忙しく大変な毎日です。とりわけ核家族の場合は、お子さんのことを最優先にしようとするればするほど、ストレスが増え、お子さんがいる幸せを忘れそうになることもあるかもしれません。



会社の仕事が忙しい時に限ってぐずるような気がするのは私だけかしら・・・

もつと家の手伝いをして料理の仕方を身に付けておくんだった。

こんなにかんばっているのに、誰も分かってくれない！

反抗期に入っただ娘のこと、誰かに相談したいけれど・・・

ママ友・パパ友に相談してみてもいいかな？

特に、先輩ママ・パパは頼りになる経験者です。

分かるよ。僕たちも大変だったから。

ご近所の先輩がお声がかかるのを待っています。

いざというときに力になってくださるご近所の方を味方にしましょう。

遠慮しないでね。大変な時はお互い様だから。

保健師さんや子育て支援センターをご存じですか。

アイアイセンターの保健師さんなどに相談する方法もありますよ。

お気軽においでください。

お母さん、お父さんの心に余裕があり「あなたがいるから幸せ」と笑顔で言えれば、子どもたちも、きつと、幸せなはずですよ。

涓滴

まなざし

家庭でのなげない会話や、親のまなざしに、子どもたちは愛情を感じ、心の居場所をみつめていく。子どもに愛情を伝えるヒントとして「選択の場」と「ものの見方」をあげたい。

毎日の子どもの様子には、注意しなくてもいいことがある。ゲームばかりして宿題をしない。苦手な食べ物は手を付けないなどである。そんなとき、親の愛情が伝わるように、話す方法はないだろうか。

手だての一つが、「選択」である。「ゲームをしたいのなら、何時までするの。」と、子どもにも考えさせるのである。最初から禁止してしまわない。「宿題をしてから寝るまで2時間するか、食事の前だけゲームの時間にするのか、どちらがいいのか、考えなさい。」と言いつつ、選択させるのである。自分が選択したこと、子どもは考えながら納得し成長していく。

二つ目が、ものの見方である。言うことを聞いてくれないと、「まだ、できないの。」「昨日と同じじゃないの。」と叱ってしまう。叱り続けていると、子どもの成長を見逃してしまう。

ここで視点を変えて、子どもの「少しの変化」に注目する。「ゲームの時間が減ったね。」「今日は、苦手な食べ物も少しは食べられたね。」など、変化に目を向けるのである。大人にとっては、小さな変化かもしれないが、実は、子どもの中では大きな変化が起きている。それをすかさず見つけ、気づいたことは、子どもにも伝えていく。すると、子ども自身も自分の成長に気がつき、さらに変化していく。

子どもたちは、生き物の本能として、よりよく成長したいという気持ちをもっている。そして、その成長を見守るあなたがいまなごしを待っている。「見守ってくれている幸せ」を感じながら、子どもたちは、今日を精一杯に生きていくことだろう。

「涓滴」とは「しずく」という意味。しずくも集まれば、やがて大河となることの願いを込めて。

子育ての大変さを誰かに聞いてもらうだけでも、ずいぶん気持ちも軽くなるものです。また、大変な時は家族だけで抱え込まずに、誰かの手を借りることも、よりよい子育てのためには必要なのではないでしょうか。



鯖江市子育て支援センター
鯖江市桜町3丁目7-20 TEL51-3527
*「なかよし一む」開催中
子育て電話相談
TEL51-3527 月～金 9:30～17:00
*秘密は厳守します